

文学部A方式 I 日程・経営学部A方式 I 日程・人間環境学部A方式

## 3 限 選 択 科 目 (60 分)

科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ	科 目	ペー ジ
政治・経済	2～22	日 本 史	24～38	世 界 史	40～55
地 理	56～66	数 学	68～73		

## 〈注意事項〉

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 科目の選択は、受験しようとする科目の解答用紙を選択した時点で決定となる。一度選択した科目の変更は一切認めない。
4. 数学については、定規、コンパス、電卓の使用は認めないので注意すること。
5. マークシート解答方法については、以下の注意事項を読みなさい。

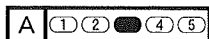
## マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどを使用しないこと)。

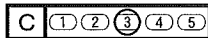
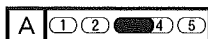
## 記入上の注意

1. 記入例 解答を3にマークする場合。

(1) 正しいマークの例



(2) 悪いマークの例



} 枠外にはみださないこと。

○でかこまないこと。

2. 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。
3. 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。
4. 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

# (世界史)

〔I〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。(ただし、下記の文中のポリスAはどこかを答えることを求める設問はない。)

日本で、自由という言葉がおおよそ現在解されているような意味で使われるようになったのは明治維新以降のことだと言われている。日本が開国して西洋世界の文化を受け入れたころのことであった。そのころ西洋世界は自由という概念に強いこだわりを持っていたようにみえる。19世紀イギリスの思想家ジョン＝スチュアート＝ミルは、マラトンの戦いが英国史上の事件としてさえも、ヘースティングズの戦いより重要な意味を持ったという趣旨の記述を残している。

マラトンの戦いは、<sup>(1)</sup>東方の専制君主国家<sup>(a)</sup>によって前5世紀初頭から起こされた西方世界への侵攻と、それに抵抗した諸ポリスによる一連の戦闘のうちの一つであった。専制君主国家とのこの大戦争についての記述を残し、「歴史の父」とも呼ばれる、<sup>(a)</sup>紀元前5世紀の歴史家  もまた、諸ポリスの戦いを自由のための戦いと見ていた形跡があることが指摘されている。マラトンの戦いから10年を経て  の海戦<sup>(1)</sup>が起こる。この戦いでも、諸ポリスが急ごしらえで集めた連合艦隊の主力となったのはポリスAの軍船であった。この時、クセルクセス自らが率いた遠征軍は、惨憺たる敗北を喫している。このポリスAについて、 は、ポリスAが僭主に支配されていた間には、軍事的にさしたる強国ではなかったが、<sup>(2)</sup>前6世紀末に行われた改革以降、他に抜きんできた強国となったと述べている。<sup>(c)</sup>

やがてこのポリスAは、 同盟<sup>(d)</sup>を通じてエーゲ海一帯をその支配圏に収めて繁栄を誇ることとなる。そしてそのことに対する反発が原因の一つとなつて、<sup>(3)</sup>ギリシア世界のほぼ全域を巻き込んださらなる大戦争が生じる。この前431年<sup>(4)</sup>に始まって27年の長きにわたった大戦争については、歴史家  の残した記述が基本的な史料とされている。 はイオニアにあったハリカルナッソス出身であったが、 はポリスAの市民であった。 が語

る  同盟結成に至るまでの経緯を  の記述と比べると、両者の  
<sup>(d)</sup> 筆の運びの違いから、立場の違いが浮かび上がってくるようにも思われる。

問1 空欄  ,  に入るべき人名を解答欄に記入せよ。

問2 空欄  ,  に入るべき地名を解答欄に記入せよ。

問3 下線部(1)について、ポリスAへの侵攻を命じて、マラトンの戦いを引き起こした時の、東方の専制君主国家の王の事績が、イラン西部の崖に彫られた碑文として残されている。後にローリンソンは、この碑文を研究して楔形文字の解読に成功したと言われる。この碑文を何と呼ぶか。解答欄にその碑文の呼称を記入せよ。

問4 下線部(2)について、ポリスAにおいて初めて僭主政を樹立したのはだれか。解答欄にその人物名を記入せよ。

問5 下線部(3)について、パルテノン神殿は、そのころのポリスAの繁栄を如実に示す建造物として知られている。この神殿の再建工事を担当し、黄金と象牙を使用した巨大なアテナ女神像を製作したことで知られる彫刻家はだれか。解答欄にその人物名を記入せよ。

## 世界史

問6 下線部(4)について、以下の問いに答えよ。

- (1) この大戦争のさなかに、『女の平和』という反戦劇を著した劇詩人はだれか。解答欄にその人物名を記入せよ。
- (2) 下記の説明文のうちから明らかに誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。
  - 1 この大戦争開始直後から蔓延した疫病により有力な指導者を失ったポリスAには、デマゴーゴスと呼ばれる好戦的な指導者が多数現れた。
  - 2 『オイディプス』の作者ソフォクレスや、『メディア』の作者エウリピデスは、いずれもこの大戦争の終焉を見る前に相次いで世を去った。
  - 3 ソクラテスは、この大戦争中のポリスAにおける民主政治を衆愚政治として批判し、スパルタの国制を賛美したため、この戦争中に死刑判決を受けて死んだ。
  - 4 27年の長きにわたった、この大戦争について記述した  の著作は、未完のままに残されている。

問7 下線部(a)について、下記の説明文のうちから正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 この国が滅びた後、オリエント世界は、リディア、メディア、新バビロニア、エジプトの4王国が分立する時代に入った。
- 2 ダレイオス2世がアルベラの戦いに敗れて滅亡した。
- 3 カンピュセス2世がエジプトを征服して、オリエント世界を統一した最初の世界帝国となった。
- 4 キュロス2世が、メディアを滅ぼして建国の祖となった。

問8 下線部(b)について、下記の選択肢のうちから  の海戦と同じ年に起こった戦闘を一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 イッソスの戦い   | 2 イプソスの戦い   |
| 3 テルモピレーの戦い | 4 プラタイアイの戦い |

問9 下線部(c)について、下記の説明文のうちから正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 この改革の時に導入されたオストラキスモス(陶片追放)の制度によって最初に追放されたのはテミストクレスであった。
- 2 デーモスと呼ばれる行政区を基底に据えて、市民が所属する区を複雑に組み合わせて、市民団を再編成する部族制改革を断行した。
- 3 市民を財産の多寡によって4等級に分け、それぞれに権利義務を配分する国制改革を行った。
- 4 従来の10部族制を4部族制に改め、各部族100人からなる400人評議会を創設した。

問10 下線部(d)について、下記の説明文のうちから正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 この同盟に対抗するために、スパルタはペロポネソス同盟を結成して、全ギリシア世界を巻き込む大戦争を引き起こした。
- 2 この同盟は、マラトンの戦いの直後に結成され、前480年に起こったペルシアとの海戦におけるギリシア側の勝利に多大な貢献をした。
- 3 この同盟に加盟した諸ポリスは、三段櫂船と呼ばれる古代の軍船に兵員を載せて供出する義務があったが、多くのポリスはそれに見合う資金を拠出する道を選んだ。
- 4 この同盟に寄せられた巨額の資金は、はじめポリスAの金庫に置かれていたが、前454年以降はこの同盟の名称になっている島のアポロン神殿に移された。

## 世界史

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

日本の哲学者の三木清は、「旅に出ることは日常の生活環境を脱けることであり、平生の習慣的な関係から逃れることである。旅の嬉しさはかように解放されることの嬉しさである。ことさら解放を求めてする旅でなくても、旅においては誰も何等か解放された気持になるものである。或る者は実に人生から脱出する目的をもってさえ旅に上るのである。」と述べている(三木清『人生論ノート』)。古来、人間はさまざまな理由から故郷を離れ、別の場所に移動してきた。その模様は旅の当事者たちによって直接記録されただけでなく、文学者の想像力を刺激し、旅する主人公が登場する多くの文学作品を生み出してきた。しかし、これらの記録や作品をみると、ヨーロッパの歴史において、旅はつねに三木の言うような日常からの脱出や人生からの解放であったわけではないことがわかる。

ヨーロッパの中世においては、キリスト教の聖地への巡礼を除いて、旅や移動は特定の職業や人間集団と結びついていた。たとえば、騎士や手工業の職人は、一人前になる前に長期間にわたってさまざまな地域をめぐって技を磨き知識を習得することを義務づけられている場合があった。これを遍歴という。また15世紀前半にヨーロッパにやってきたロマの人々も、定住せず各地を放浪し続ける民族集団であった。こうした人々にとって旅は日常生活の一部であり、またそれは決して嬉しいものでも楽なものでもなかった。

遠距離商業が復活し、ヨーロッパ人が海外進出にのりだすようになると、商人や航海者、さらに布教におもむいた宣教師たちから、旅行先や航海の様子について詳細な報告がつぎつぎに本国にもたらされるようになった。また、ルネサンスが始まると、旅の文学に関わる新しい傾向として、主人公が現実には存在しない架空の土地や世界を訪れるという設定の著作が出現してきた。そのもっとも初期の例が、A <sup>(1)</sup>によってトスカナ語で書かれた叙事詩『神曲』であり、この作品はイタリア国民文学の先駆と言われる。

その後、こうした著作のなかには中世から近世へと移行する政治社会の変容を反映して、架空の旅行記の形式で現実社会を批判したり、旅先で訪れた場所に仮託して自らの政治思想を述べるものが現れた。国王ヘンリ 8 世 <sup>(2)</sup>時代のイギリスで

大法官を務め、国王と対立して処刑された **B** の『ユートピア』(1516年)は、この系譜に属する作品と言えよう。

近世に入ると、旅行は個人が経験を積むための重要な機会を提供するものと考えられるようになった。17世紀から18世紀には、イギリスを中心に各国の貴族や上流階級の子弟が成人前に教育の仕上げとしてヨーロッパ各地の名所旧跡を探訪し見識を深める「グランド・ツアー」と呼ばれる旅行が盛んにおこなわれた。1786年から1788年までのイタリア旅行での見聞をまとめた **C** の『イタリア紀行』は、こうした教育旅行の盛んであった時代の旅行記の白眉である。またフランス啓蒙主義の思想家の一人ヴォルテールは、主人公が旅先でつぎつぎに災難と不幸に見舞われる様子を『カンディード』(1759年)のなかで面白おかしく描いてみせた。

啓蒙主義の理性による探求の精神は自然科学の発達をうながした。科学者たちは、世界各地に学術的な調査旅行におもむき、その土地の植物、動物、気候、地理やその地域の住民の風俗を詳細に調べ上げ、報告書を発表した。太平洋を3度にわたって探検し、ハワイ島で住民に殺された **D** の『世界周航記』(1773～84年)や、南アメリカ沿岸やガラパゴス諸島を調査し、のちに進化論を発表した **E** の『ビーグル号航海の動物学』(1838～43年)は有名である。

さらに時代が進んで18世紀末から19世紀初めにかけてロマン主義が台頭してくると、旅には旅する人の自己の内面探求という目的が与えられた。そこでは、旅は目的地に着くことではなく、移動の過程で得られる体験や感動こそが重要と考えられた。この時代は、主人公が旅を通じて成長し変化していく様を描く「教養小説」と呼ばれるジャンルがドイツを中心に流行した。代表作としては、**C** の『ヴィルヘルム＝マイスターの遍歴時代』(1795～1796年)や、ナポレオン戦争にも従軍した愛国詩人アイヒェンドルフの『愉しき放浪児』(1823年)が有名である。

ナポレオン没落後は、政治的には反動的なウィーン体制のもとで、ロマン主義だけでなく自由主義が強まってきた。何ものにも束縛されない自由な精神のあり方が賛美されるようになり、かつて中世にみられた遍歴や巡礼といった旅のありかたや、定住せず放浪を続けるロマの生活は、文学作品の上では、自由でロマン

## 世界史

主義的な生き方の典型として再評価とあこがれの対象となっていく。イギリスのロマン主義の詩人で自らも故郷を捨てて大陸に渡り、最後はギリシア独立戦争に参加して非業の死を遂げた **F** の『チャイルド＝ハロルドの遍歴』(1812～1818年)はその一例である。

17世紀半ばから19世紀にかけては、ブルジョワジーのおこした変革運動によって君主が絶対的な権力を握る政治体制が崩壊し、また技術革新による蒸気機関や鉄道の普及がはじまるなど、ヨーロッパをめぐる政治・経済状況が大きく変化した。この結果、農村から都市への人口移動や海外への移住といった人の動きが盛んになった。各国の首都や新興工業都市は新しい経済制度の中心地として、多くの人を引きつけ、急速に人口が増大していった。写実主義的な描写を得意としたイギリスの小説家 **G** の代表作である『オリバー＝トゥイスト』の主人公の少年も、そうした一人であり、故郷の奉公先を逃げ出してロンドンに向かったのである。こうした大規模な人の移動をさらに促進したのが鉄道で、イギリスの **H** が蒸気機関車の実用化に成功したのち、1830年代以降ヨーロッパ各国で急速に普及していった。

都市の生活環境が人口の増加により悪化してくると、裕福な者たちをはじめとして都市生活者たちは、都市周囲ののどかな地域や美しい自然のなかに旅行をおこない、疲れを癒し休息をとるようになった。トーマス＝マンの『ブッデンブローク家の人々』には、1848年より少し前の話として、主人公の北ドイツのブルジョワ一家がバルト海沿岸に避暑に出かけるシーンが出てくる。また、フランスの『レ＝ミゼラブル』で知られる小説家 **I** は各地を訪れ、『ライン川幻想紀行』(1842年)のように自然の美しさや歴史を美しい散文でつづった記録を発表し、これらの著作は一種の旅行ガイドの役割を果たした。

イギリスでトマス＝クックが手がけた旅行代理店が開業し、鉄道を利用した都市近隣への安価なツアー旅行を提供するようになると、旅行は庶民の手に届くものになっていった。彼は、1851年にロンドンで開かれた世界各国の工業製品や美術品を展示する一大イベントである **あ** に際して、地方在住者のための観光ツアーも手がけ、大成功を収めた。

19世紀後半以降、こうした旅行の一般化はさらに進むとともに、余暇・レジャ



ーとしての性格も強まっていった。旅行を題材とする娯楽作品も発表されるようになる。フランスの小説家ジュール＝ヴェルヌの『八十日間世界一周』(1873年)は、賭をして期限以内に世界一周をしようとするイギリス紳士の物語である。さらに20世紀にいたると、イギリスの推理小説家アガサ＝クリスティの『オリент急行殺人事件』(1934年)のように、旅は殺人事件の場にすらなっていくのである。

問1 文中の空欄  ～  に入るもっとも適切な人名を、解答欄に記入せよ。

問2 下線部(1)に関連して、トスカナ地方およびその中心地フィレンツェについて述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 フィレンツェは13世紀以降、遠隔地貿易や毛織物・金融業で繁栄した。
- 2 フィレンツェの支配者となったスフォルツァ家は芸術を保護し、イタリア＝ルネサンスの原動力となった。
- 3 1559年のカトー＝カンブレジ条約以降、トスカナはフランスの支配下に入った。
- 4 1860年、トスカナをはじめとする中部イタリアの諸国はガリバルディの活躍によりサルディーニャ王国に占領された。

問3 下線部(2)に関連して、ヘンリ8世とその統治下のイングランドについて述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 バラ戦争を終結させ、イギリス絶対王政の絶頂期を築いた。
- 2 統治の初期はグレシャムなど多くの才能ある家臣を登用し、星室庁を中心に寛容な政治をおこなった。
- 3 羊の放牧のため農地を囲い込むエンクロージャーが進展した。
- 4 海軍力が強化され、また東インド会社が創設されて海外への進出が本格化した。

## 世界史

問4 下線部(3)に関連して、ヴォルテールの活躍した時代のフランスについて述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 ナントの王令が廃止され、カトリック教会の力が強まった。
- 2 オーストリアとの対立が続いていたが、七年戦争ではともにプロイセンを支援した。
- 3 北アメリカの植民地をめぐってイギリスと対立したが、1763年のパリ条約の結果、同地におけるイギリスの支配権が認められた。
- 4 ルイ15世時代の宮廷がおかれたヴェルサイユ宮殿はロココ様式の代表的建築である。

問5 下線部(4)に関連して、ナポレオンのおこなった遠征について述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 はじめて軍の指揮を執ったイタリア遠征ではヴァルミーの戦いで大勝利を収めた。
- 2 エジプト遠征は最終的には失敗に終わったが、遠征に同行した学者たちはアラム文字を解読するなど考古学上重要な成果を収めた。
- 3 1805年からの中央ヨーロッパへの遠征ではドイツに進撃し、オーストリア・プロイセン・ロシア連合軍をアウステルリッツで撃破し、第三回対仏大同盟を崩壊させた。
- 4 1812年のロシア遠征は失敗し、プロイセンやオーストリアのフランスからの離反を招いた。

問6 下線部(5)に関連して、ウィーン体制下のヨーロッパについて述べた下記の文章のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 ウィーン会議では、オーストリアの宰相メッテルニヒが勢力均衡と正統主義を唱えた。
- 2 ウィーン会議の結果ドイツの統一は認められず、ハプスブルク家の支配する神聖ローマ帝国とプロイセン王国の対立は解消されなかった。
- 3 スペインではブルボン家の支配が復活したが、ナポレオン支配下につくられた自由主義的な憲法がそのまま採用された。
- 4 ポーランドではワルシャワ大公国が解体され王国として名目上独立を認められたが、ロシアの支配下に入れられた。

問7 下線部(6)に関連して、この変化を何と呼ぶか、その名称を解答欄に記入せよ。

問8 空欄 

あ
---

 に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入せよ。

## 世界史

問9 下線部(7)に関連して、1848～1849年に起きた政治的事件およびその後のヨーロッパ各国の政治体制について述べた下記の文章のうち、間違いを含むものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 ウィーン会議以来の同盟関係は崩壊したが、以後はプロイセン首相ビスマルクが、メッテルニヒを引き継いでヨーロッパ列強相互の利害対立の調停と勢力範囲の確定による勢力均衡の維持に努めた。
- 2 フランスでは、二月革命の結果成立した臨時政権に、ルイ＝ブランらの社会主義者がはじめて参加したが、彼らの政策は国民の間に支持を広げることはできなかった。
- 3 ドイツでは、プロイセン王やオーストリア皇帝が憲法制定を約束するなど、自由と民主主義を求める運動は一定の成果を収めたが、フランクフルトで開催された国民議会を中心としたドイツを統一しようとする努力は実を結ばなかった。
- 4 東ヨーロッパや北部イタリアなど、他民族の支配を受けていた地域でおこった独立を求める運動はすべて失敗に終わったが、その後の各地の民族運動に大きな影響を与えた。

〔Ⅲ〕 中国のある都市について記した次の文章を読み、下記の問いに答えよ。

19世紀半ば以降、ヨーロッパ諸国は産業革命の進展や国内統一の達成などを背景に、原料供給地や市場の獲得を目指して、中国をはじめとするアジアへの進出や領土獲得を本格化させていった。

いち早く実行したのはイギリスで、 に勝利した結果、香港島割譲を清朝に認めさせた。<sup>(1)</sup> 国内統一問題から遅れをとったドイツでも、やがて中国進出の意欲が高まり、ドイツ東洋艦隊が寄港できる港が求められた。その動きを加速したのは  における清朝の敗北と中国分割の進行で、ドイツはまだ他の列強が進出していない山東半島に狙いを定め、1897年自国の宣教師二人が殺害された事件を口実に、翌年  湾を租借した。

ドイツ租借地の中心都市として成長したのがこの都市である。この都市にはその後、ドイツ風の名前をもつ通りや、ヨーロッパ風の建築が随所につくられ、<sup>(2)</sup> 港湾・上下水道や学校・病院など、近代的な都市生活に必要な各種の施設や工場などが整備された。

開戦直後、ある国との同盟関係を理由に、そのドイツに対し宣戦布告をしたのが日本である。<sup>(3)</sup> この戦争の主要な戦場はヨーロッパだったため、日本はさほど大きな戦力を割くことなく  湾を占領するに至った。山東省におけるドイツ権益を引き継いだ日本は、その継承や他国への不割譲を求める項目を第一号に置いた要求を中国に突きつけた。<sup>(4)</sup> 山東省における日本の権益は、1919年のパリ講和会議においても認められたが、中国の民衆や学生らによる強い反発を招いたこともあり、<sup>(5)</sup> 戦後の国際秩序を討議するために開かれた  会議での議論に基づき、日本は1922年、租借地をいったん中国政府に返還した。<sup>(6)</sup>

しかし、山東省はすでに日本の支配下にある朝鮮半島や遼東半島の対岸に位置し、中国進出を企てる日本にとって重要な場所の一つであり、<sup>(7)</sup> また多くの日本人居留民が暮らしてもいた。そのため、その後も北伐の進展を阻止する目的で、日本軍は1927年から三次にわたる山東出兵を断行した。<sup>(8)</sup> さらには、日中間に全面戦争が始まった1937年から1945年にかけてもここを占領統治した。経済的には、製塩のほか、紡績業が盛んだったことが知られている。

## 世界史

第二次世界大戦の敗北で日本が退くと、この都市には一時、西太平洋を統轄するアメリカ艦隊の司令部が置かれた。しかし、 における国民党軍の劣勢を背景に、そこを放棄した。

この都市は、文化大革命後の改革開放政策の中で、ドイツの遺産を色濃く残した近代的な港湾都市として、その特色を活かしつつ観光や経済の面で発展している。また、韓国と近いこともあり、近年は韓国企業が相次いで進出し、韓国人が多く暮らす都市にもなっている。

問1 文中の  ～  には、いずれも戦争関連の名称が入る。ふさわしいものを次から選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |         |           |           |
|---------|-----------|-----------|
| 1 アヘン戦争 | 2 アロー戦争   | 3 国共内戦    |
| 4 清仏戦争  | 5 第一次世界大戦 | 6 第二次世界大戦 |
| 7 朝鮮戦争  | 8 独ソ戦     | 9 日露戦争    |
| 10 日清戦争 | 11 日中戦争   | 12 満州事変   |

問2 下線部(1)の香港島割譲後の香港の歴史について述べた次の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 太平洋戦争中には、日本軍によって占領された。
- 2 香港が中国に返還されたのは、いまから20年前の1997年である。
- 3 返還に際しては、社会主義と資本主義の「一国二制度」を今後50年間維持することとされた。
- 4 香港に続いて、マカオもイギリスから中国に返還された。

問3  の部分に入る地名を次から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| 1 広州 | 2 膠州 | 3 塘沽 | 4 天津 | 5 渤海 |
|------|------|------|------|------|

問4 下線部(2)について、中国には西洋各国が権益を有していた結果として、いまでも西洋風の建築が立ち並ぶ地区がこの都市以外にも存在し、観光や経済活動などに活用されている。その一つで、蔣介石がクーデタを起こしたことでも知られる大都市はどこか。解答欄にその都市名を記入せよ。

問5 次のうち、下線部(3)の「ある国」について述べた文として正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 かつてモンロー主義を唱えていた国である。
- 2 かつて長崎の出島を通じて日本と関係が深かった国である。
- 3 インドをはじめ、世界に多くの植民地を有していた国である。
- 4 作家トルストイを生んだ国である。

問6 下線部(4)の山東省にあったドイツ権益と同様に、ドイツの支配下にあった太平洋の島々の一部も日本が掌握するところとなった。この領域について述べた次の文のうち、間違っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 第一次世界大戦後、赤道以北が日本の委任統治領となった。
- 2 パラオは1994年、アメリカの信託統治領から独立した。
- 3 アメリカが第二次世界大戦後、原水爆実験を繰り返したビキニ環礁は、この範囲内にある。
- 4 かつて画家のゴーガンが好んで滞在したタヒチは、この範囲内にある。

問7 下線部(5)にある要求は、ふつう何と呼ばれるか。その名称に含まれる数字のみを解答欄に書きなさい。

## 世界史

問8 下線部(6)にあるような中国の民衆や学生らによる日本への強い反発は、この時だけでなく、その後も長く続いた。次のうち、日本への反発ともっとも関係の薄いものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |         |          |
|---------|----------|
| 1 五・四運動 | 2 五・三〇運動 |
| 3 大躍進   | 4 八・一宣言  |

問9 の部分に入る地名を次から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- |        |        |        |         |
|--------|--------|--------|---------|
| 1 ポツダム | 2 ロカルノ | 3 ロンドン | 4 ワシントン |
|--------|--------|--------|---------|

問10 下線部(7)のように、中国進出を企てる日本にとって重要な場所の一つに福建省があった。そこが重要な理由としてもっとも相応しいものを次から一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 抗日運動の最大の根拠地があるため
- 2 台湾の対岸であるため
- 3 華僑を数多く出している土地柄のため
- 4 著名な茶の生産地であるため

問11 下線部(8)の山東出兵について述べた次の文のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 山東出兵は、田中角栄内閣のときに実施された。
- 2 山東出兵の中で、済南事件という日中の衝突も起きている。
- 3 山東出兵と同じ年にシベリア出兵も行われた。
- 4 山東出兵をした日本軍を迎え撃ったのは八路軍である。

問12 下線部(9)にある改革開放政策は中国のみならず、ベトナムでも実施されている。ベトナムの改革開放政策を意味する用語をカタカナで解答欄に記入せよ。



問13 下線部(10)のように、中韓の関係が緊密化したのは、両国が国交を結んでからのことである。中国や当時のソ連など、社会主義国との国交正常化を推進した韓国の大統領は誰か。次のうち正しいものを一つ選び、その番号を解答欄にマークせよ。

- 1 金大中            2 金泳三            3 盧泰愚            4 盧武鉉

問14 上の文章で「この都市」(初出のみ下線)と表現されている都市はどこか。解答欄にその都市名を記入せよ。